

宇治橋うちばしは孝徳天皇かうとくの御宇大化二年に、元興寺ぐわんこうじの道昭和だうせうおしやう尚此橋をかけ初しなり。〔いにしへは橋是より西にあり、明衡往来には東に望たちほなこしまば橋小島崎、西に顧れば宇治の長橋云云〕

三間水さんまのみづ〔山城の名水なり。瀬田せの橋下龍宮りゆうぐうより涌出る水、此所へ流来るなりと。又一説には、竹生島ちくぶしま辨財天しるべんさいてんの社壇の下より流出るといふ。秀吉公ひでよしこう伏見御在城の時常に汲しめ給ふ〕

通円つうえんが茶屋 橋のひがし詰つめにあり、いにしへよりゆき、の人に茶を調て、茶茗を商ふ、茶店ちやてんに通円つうえんが像あり。〔むかしより宇治橋掛替のときは、此家も公務の沙汰とし造りかへあるとなり〕